

地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。

この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。

また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	医療法人 厚生会
代 表 者 名	理事長 林 譲也
事 業 所 名	グループホーム匠
評 価 確 定 日	2021/1/13

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100355		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム匠(九頭竜ユニット)		
所在地	福井市灯明寺4丁目1706番地		
自己評価作成日	令和 3年 11月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づいて、利用者様が自分らしく生活出来る様に個別性を尊重した生活の支援をさせて頂いている。
季節感を大切に、利用者様に楽しんで頂けるように行事や食事など工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は新興住宅地で近くに大きな公園があり、畑、神社も丁度よい距離で、気楽に散歩でき日々の移り変わり、季節を感じられる。職員は事業所理念を基に、個人目標を設定し利用者が自分らしい人生を歩めるよう支援されている。年2回の面接では目標管理シートを用いた評価があり、職員の質の向上に繋がっている。食事の献立は利用者で決め、男性職員も一緒に調理に取組んでいる。調理活動を通して会話も弾み、日頃聞けない話も聞けるなど個別性を大事にした利用者支援に反映されている。コロナ禍で活動が制限される中でも利用者が一人ひとり楽しめるよう、職員間で意見を出し合い、スイカ割り、かき氷店、駐車場で夏祭りなど工夫され事業者理念の利用者が自分らしい人生を歩める支援につなげられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示して、毎朝の朝礼時に理念を復唱し、職員間で意識の共有をしている。職員一人一人が日々のケアを振り返りミーティングを通して理解を深めている。	事業所理念と基本方針を掲げ、利用者、家族には契約時に運営方針を説明している。職員は理念を基に個人目標を立て、半年ごとに管理者と面談し、目標管理シートで評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり、地域で行われている公園の掃除など出来る限り参加している。夏祭り等の行事に参加していましたが、コロナ禍のため中止しています。	地域交流会の案内には回覧板を利用していたが、コロナ禍で中止している。地区の集会場の改修アドバイスや公園清掃等、地域から依頼があれば協力し、地域住民との関わりを築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域交流会を開催し、認知症の啓発活動を行っていたがコロナ禍のために開催できず。近隣の集会所を改修するために介護に携わる施設としてアドバイスを行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、意見交換を実施。コロナ禍に入り書面会議にて対応。議事録を各関係各所に郵送し回答を頂いている。	議事録と意見をもらいやすく工夫した様式を運営推進会議の構成メンバーへ送付し、返信用封筒で回収している。意見は運営に反映している。会議の内容や意見は家族全員にお便りで知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの方に相談やアドバイスを頂いている。疑問点などは市の担当者に確認を行い対応している。	日頃から、市地域ケア推進課、地域包括支援センターと連携を図り、わからないことがあれば相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	障害者施設の事件以降は玄関だけで施錠を行っている。運営推進会議時に、身体拘束等の適正化の為に委員会を開催し報告等を行っている。	法人会議に毎月参加し、身体拘束適正委員会でマニュアルの見直しを行っている。ユニット間の通路には鍵があるが、利用者は自由に出入りできる。夜間は足元センサーを使用し、ユニット間で連携して対応し拘束しないケアの取組みを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、当法人内での研修に定期的に参加している。施設内での伝達講習会を行い職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設では2名後見人制度を利用している。後見人と接する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に必要な事項の説明は十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は担当者会議、面会時や来訪時には話し合い等を行い、意見や要望などを確認している。運営推進会議においても家族様に参加を依頼し、意見を確認している。	家族とは、受診で来所する時以外にも電話で連絡を取り合い、話しやすい関係の構築に努めている。日常的に口答でもらった要望・意見は、支援経過に記録し、職員間で共有し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務ミーティングを開催し施設内における問題について話し合いを行っている。また毎日申し送りや各ユニット間でもミーティングを行っている。法人会議での連絡事項も日々のミーティングにて報告している。	朝・夕の申し送りミーティング、会議、カンファレンスで意見・提案ができる。会議等の記録は回覧し、意見があれば記入できる。情報共有シートを1週間掲示し、職員全員で再度確認し、意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課で自己評価、管理者評価、個人面談を行い意見や意向など確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内など提示し興味のある研修に参加してもらえる様にしている。院内研修に適宜参加し学習する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会して研修会等に適宜参加している。地域包括支援センター主催の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時などに利用者様、ご家族への要望の確認を行っている。プランにも反映させ実施している。自宅での生活が反映できるように馴染みの物を持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時などに利用者様、ご家族への要望の確認を行っている。プランにも反映させ実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成者がアセスメントをした上で、支援を見極めてケアに結び付けている。電話連絡時や面会時に本人様の様子等を報告し、ご家族の意見を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた活動を支援し、体操や料理、掃除など出来ることは職員と一緒に取り組んで頂いている。手伝って頂いた際には「ありがとうございました」等の声かけ忘れずにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有している。受診介助なども基本的にはご家族にお願いしている。緊急時や体調不良時には電話にて相談・連絡をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為に面会制限を社会情勢に合わせて実施中。リモート面会等を導入し面会の継続を行っている。	家族からの聞き取りや日常生活で利用者から聞いた情報をもとに、手紙・年賀状等、利用者が今までしてきたことは続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	得手、不得手があるのでグループに分けるなどして活動を提供している。イベント時に合同にてレクリエーションを実施している。運動を兼ねてユニット間を職員と一緒に歩行を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も問い合わせなどには、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動の中で、職員より情報をもらい意向や思いなどを確認している。自分らしく心地よい生活を送ってもらえるように支援している。入居者個々に担当職員を決めている。	言葉で意思表示できない利用者に対しては、表情を見ながら、筆談、しぐさから思いをくみ取っている。把握した情報は経過記録に記載し、ミーティング、会議で共有し、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が各利用者の基本情報を確認するように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用して記録を行っている。適宜介助方法などを見直し・検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング等を職員間でも行っている。面会時や担当者会議を通して介護計画書に反映している。	管理者が計画作成し、職員は変化があればミーティングノートに記録し、フロア内で話し合い計画を見直し、会議にかけている。日勤リーダーは両ユニットの情報を共有できる体制になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議やミーティング、申し送りを通してケアの見直しを行っている。申し送りに関しては共有シートを業務に入る前に確認し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向をくみ取りながら、ケアの見直しを行っている。管理者と各ユニットリーダー・職員とコミュニケーションを取りケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と協力し、安定した生活を提供できるように心がけている。現在コロナ禍のために地域との交流は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医や家族が希望するところにて家族介助にて受診を行って頂いている。日頃の状態を記載した書面を家族に渡し、主治医との情報共有に努めている。	かかりつけ医の受診に際しては、家族が不安なく受診できるよう、医師に直接の電話や報告書での情報提供をしている。法人の医療機関とは電子カルテシステムで情報のやり取りができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や身体観察で気づいたこと、異常時には指示を仰いでいる。緊急時の対応も看護師を中心に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ基本情報を提出している。入院中は医療連携・相談員と定期的に連絡を取りながら情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、早い段階から家族と相談する機会を持ち、今後についての話し合いを行っている。	契約時に介護指針を家族に説明し、事業所での入浴が困難な場合は、特別養護老人ホームへの移行を支援している。看護師が週5日勤務しており、利用者の状態について担当医と相談し、安心して生活できるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応時の研修にも適宜参加を行い伝達講習を行っている。急変時、事故発生時に備え連絡先や搬送先の確認を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を開催している。運営推進会議などでも協力の要請などを行っている。非常食、簡易ガスコンロなど備蓄している。	マニュアルを整備し、職員がいつでも確認できるようにしている。火災訓練は、年2回消防署の指導のもと昼夜を想定して実施している。豪雨災害、震災訓練も実施している。	地域住民が協力しやすいよう訓練内容を明確にし、利用者の安全を確保できる取組みにつなげることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮した言葉遣い、声掛けを行うように心がけて介助している。プライバシーを損なう言動が見られた場合には職員同士で注意し合っている。	接遇研修に参加し、職員間で言葉かけに特に注意している。日頃から、居室のドアを開けたままにして介助はしない、ドアはノックして開ける等を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に分かりやすいよう説明や同意を得ている。話しやすい様に日頃からコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に担当の職員をつけ個人活動の充実を図っている。その日の状態や個々のペースを尊重し、本人の望む過ごし方が出来るように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師を月に1度施設に呼んだり(コロナ禍時は中止)、衣類は本人の思いを尊重し一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事には参加していただいている。手作りおやつの際なども同様に行っている。	各ユニットで家庭的な料理を利用者と職員が手分けして作っている。メニューは食べたいものを1週間ごとに決め、行事食も取り入れている。食事を通して利用者のできることを引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量・食事の摂取量を毎回記載している。好みの飲み物を摂取し水分をしっかり摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。夜間は義歯を洗浄液につけ除菌・消毒行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄のパターンを把握しトイレの声かけ、誘導を行っている。	全員トイレで排泄している。夜間は状態に応じてポータブルトイレを使用することもある。健康維持のため、適切な水分補給を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれている食事の提供を心掛けている。また主治医から支持のあった下剤の管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人様の状態・希望・タイミングに合わせて臨機応変に対応している。	日曜日以外、毎日入浴できる。9時から16時の間で利用者の要望により対応している。入浴剤を使用し、利用者がゆったり入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午睡などしていただいている。就寝時間等も強要することなく休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師に服薬のセットを任せている。介護職でセットをする時にはダブルチェックを行い間違いのないようにしている。服薬変更があった時には薬剤情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴などを把握し、役割や楽しみを見極め支援している。誕生日や季節行事などにも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日などは、近隣の公園に散歩を行っている。コロナ禍の為に外出行事などは行えていなかったが、社会状況に合わせて対応している。	散歩の時間を毎日設けている。外出できないときにはフロアと廊下を歩いている。近くの公園、神社での花見、事業所の駐車場を利用したの夏祭り等、コロナ禍でも工夫して毎月利用者が楽しむことができる行事を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機を利用される方やお金がないと不隠になられる方のみ、少額で本人様が所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人からの電話などがあった場合、利用者様に取り次いでいる。手紙や郵便物に関しても行っている。希望に応じてリモート面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような物や転倒のリスクが高くなるようなものは配置せず、自然な環境に配慮している。季節ごとに展示物などを作成し、季節感がわかるように配慮している。	共用空間は天井高く、広々として開放感がある。大きな窓と間接照明の柔らかな光で、落ち着いた雰囲気になっている。共用空間の一部がバリアフリーで畳の間になっており、和の雰囲気も味わうことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を食べる場所は決めているが、それ以上は座席を固定せずに座って頂いている。ソファなども配置し自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染みのある家具や写真など自宅で生活していた環境に近い形にしている。安全性の部分に気配りをし配置している。	居室はフローリングと畳の2種類の部屋がある。ベッド、チェスト、洗面台、クローゼットを設置し、利用者は好みの物を持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に必要なものを設置している(タオルや清掃道具など)手すり付近には極力物を置かない様に配慮している。入居者の身体機能に合わせて見守り・声かけ介助をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100355		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム匠(足羽ユニット)		
所在地	福井市灯明寺4丁目1706番地		
自己評価作成日	令和 3年 11月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づいて、利用者様が自分らしく生活出来る様に個性を尊重した生活の支援をさせて頂いている。
季節感を大切にし、利用者様に楽しんで頂けるように行事や食事など工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

九頭竜ユニットに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示して、毎朝の朝礼時に理念を復唱し、職員間で意識の共有をしている。職員一人一人が日々のケアを振り返りミーティングを通して理解を深めている。	九頭竜ユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり、地域で行われている公園の掃除など出来る限り参加している。夏祭り等の行事に参加していましたが、コロナ禍のため中止しています。	九頭竜ユニットに同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域交流会を開催し、認知症の啓発活動を行っていたがコロナ禍のために開催できず。近隣の集会所を改修するために介護に携わる施設としてアドバイスをを行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、意見交換を実施。コロナ禍に入り書面会議にて対応。議事録を各関係各所に郵送し回答を頂いている。	九頭竜ユニットに同じ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの方に相談やアドバイスを頂いている。疑問点などは市の担当者に確認を行い対応している。	九頭竜ユニットに同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	障害者施設の事件以降は玄関だけで施錠を行っている。運営推進会議時に、身体拘束等の適正化の為に委員会を開催し報告等を行っている。	九頭竜ユニットに同じ	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、当法人内での研修に定期的に参加している。施設内での伝達講習会を行い職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設では2名後見人制度を利用している。後見人と接する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に必要な事項の説明は十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は担当者会議、面会時や来訪時には話し合い等を行い、意見や要望などを確認している。運営推進会議においても家族様に参加を依頼し、意見を確認している。	九頭竜ユニットに同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務ミーティングを開催し施設内における問題について話し合いを行っている。また毎日申し送りや各ユニット間でもミーティングを行っている。法人会議での連絡事項も日々のミーティングにて報告している。	九頭竜ユニットに同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課で自己評価、管理者評価、個人面談を行い意見や意向など確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内など提示し興味のある研修に参加してもらえる様にしている。院内研修に適宜参加し学習する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会して研修会等に適宜参加している。地域包括支援センター主催の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時などに利用者様、ご家族への要望の確認を行っている。プランにも反映させ実施している。自宅での生活が反映できるように馴染みの物を持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時などに利用者様、ご家族への要望の確認を行っている。プランにも反映させ実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成者がアセスメントをした上で、支援を見極めてケアに結び付けている。電話連絡時や面会時に本人様の様子等を報告し、ご家族の意見を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた活動を支援し、体操や料理、掃除など出来ることは職員と一緒に取り組んで頂いている。手伝って頂いた際には「ありがとうございました」等の声かけ忘れずにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有している。受診介助なども基本的にはご家族にお願いしている。緊急時や体調不良時には電話にて相談・連絡をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為に面会制限を社会情勢に合わせて実施中。リモート面会等を導入し面会の継続を行っている。	九頭竜ユニットに同じ	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	得手、不得手があるのでグループに分けるなどして活動を提供している。イベント時に合同にてレクリエーションを実施している。運動を兼ねてユニット間を職員と一緒に歩行を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も問い合わせなどには、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動の中で、職員より情報をもらい意向や思いなどを確認している。自分らしく心地よい生活を送ってもらえるように支援している。入居者個々に担当職員を決めている。	九頭竜ユニットに同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が各利用者の基本情報を確認するように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用して記録を行っている。適宜介助方法などを見直し・検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング等を職員間でも行っている。面会時や担当者会議を通して介護計画書に反映している。	九頭竜ユニットに同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議やミーティング、申し送りを通してケアの見直しを行っている。申し送りに関しては共有シートを業務に入る前に確認し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向をくみ取りながら、ケアの見直しを行っている。管理者と各ユニットリーダー・職員とコミュニケーションを取りケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と協力し、安定した生活を提供できるように心がけている。現在コロナ禍のために地域との交流は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医や家族が希望するところにて家族介助にて受診を行って頂いている。日頃の状態を記載した書面を家族に渡し、主治医との情報共有に努めている。	九頭竜ユニットに同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や身体観察で気づいたこと、異常時には指示を仰いでいる。緊急時の対応も看護師を中心に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ基本情報を提出している。入院中は医療連携・相談員と定期的に連絡を取りながら情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、早い段階から家族と相談する機会を持ち、今後についての話し合いを行っている。	九頭竜ユニットに同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応時の研修にも適宜参加を行い伝達講習を行っている。急変時、事故発生時に備え連絡先や搬送先の確認を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を開催している。運営推進会議などでも協力の要請などを行っている。非常食、簡易ガスコンロなど備蓄している。	九頭竜ユニットに同じ	九頭竜ユニットに同じ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮した言葉遣い、声掛けを行うように心がけて介助している。プライバシーを損なう言動が見られた場合には職員同士で注意し合っている。	九頭竜ユニットに同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に分かりやすいよう説明や同意を得ている。話しやすい様に日頃からコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に担当の職員をつけ個人活動の充実を図っている。その日の状態や個々のペースを尊重し、本人の望む過ごし方が出来るように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師を月に1度施設に呼んだり(コロナ禍時は中止)、衣類は本人の思いを尊重し一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事には参加していただいている。手作りおやつの際なども同様に行っている。	九頭竜ユニットに同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量・食事の摂取量を毎回記載している。好みの飲み物を摂取し水分をしっかり摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。夜間は義歯を洗浄液につけ除菌・消毒行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄のパターンを把握しトイレの声かけ、誘導を行っている。	九頭竜ユニットに同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれている食事の提供を心掛けている。また主治医から支持のあった下剤の管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人様の状態・希望・タイミングに合わせて臨機応変に対応している。	九頭竜ユニットに同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて午睡などしていただいている。就寝時間等も強要することなく休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師に服薬のセットを任せている。介護職でセットをする時にはダブルチェックを行い間違いのないようにしている。服薬変更があった時には薬剤情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴などを把握し、役割や楽しみを見極め支援している。誕生日や季節行事などにも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日などは、近隣の公園に散歩を行っている。コロナ禍の為に外出行事などは行えていなかったが、社会状況に合わせて対応している。	九頭竜ユニットに同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機を利用される方やお金がないと不隠になられる方のみ、少額で本人様が所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人からの電話などがあった場合、利用者様に取り次いでいる。手紙や郵便物に関しても行っている。希望に応じてリモート面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような物や転倒のリスクが高くなるようなものは配置せず、自然な環境に配慮している。季節ごとに展示物などを作成し、季節感がわかるように配慮している。	九頭竜ユニットに同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を食べる場所は決めているが、それ以上は座席を固定せずに座って頂いている。ソファなども配置し自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染みのある家具や写真など自宅で生活していた環境に近い形にしている。安全性の部分に気配りをし配置している。	九頭竜ユニットに同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に必要なものを設置している(タオルや清掃道具など)手すり付近には極力物を置かない様に配慮している。入居者の身体機能に合わせて見守り・声かけ介助をしている。		